

令和元年度（２０１９年度）
第１８回くまもと食・農ネットワーク総会次第

日時：令和元年（２０１９年）８月２８日（水）

１３：３０～１４：２０

場所：ホテル熊本テルサ３階　たい樹

１　開会

２　主催者あいさつ

３　来賓祝辞

４　議長選出

５　書記及び議事録署名人指名

６　議事

第１号議案　平成３０年度活動実績について　　　　　　P.2～7

第２号議案　運営委員の改選（案）について　　　　　　P.8

第３号議案　令和元年度活動計画（案）について　　　　　P.9～11

第４号議案　その他

７　閉会

くまもと食・農ネットワーク

目的

- ◆「地産地消」の取組みによる、消費者と生産者、都市と農村の共生関係づくりを進めること。
- ◆「地産地消」の取組みを通して、熊本県の美しい自然と豊かな食文化を守り、健康で安心に暮らせる社会づくりを進め、熊本に住む豊かさを実感できるようにすること。

組織概要

会員	熊本県内外在住で、ネットワークの目的に賛同する個人（2019年8月現在 2, 101人）
運営委員	現在 20 人（食と農、文化、環境、健康等に関心が高く、「地産地消」の牽引役として役割が期待できる人、生産者、消費者、学識経験者等）
事務局	熊本県農林水産部流通アグリビジネス課

※このネットワークは、会員が自由な発想で主体的に行動できる民間主導型のゆるやかな連帯組織です。

主な活動内容

- I. 地産地消の推進
（会員個人の活動、熊本県地産地消サイトによる情報発信）
- II. ネットワーク会員の学習会の開催
（毎年夏ごろに『研修会』を開催）
- III. ネットワーク会員の相互交流の機会創出
（毎年冬ごろに『地産地消のつどい』を開催）

※「地産地消」について

地域で生産したものを地域で消費することを一般的に「地産地消」と定義していますが、くまもと食・農ネットワークでは、農林水産物をはじめ、伝統文化、地域文化、健康、環境など地域の魅力を活かすことにより、生産者と消費者の交流を通じて、より暮らしやすい豊かな生活や活力にみちた地域の実現を目指すための取り組みと位置づけています。

平成30年度（2018年度）活動実績

I 活動方針

「くまもと食・農ネットワーク」では、「地産地消」の考え方を基本に、様々な立場の会員が「地産地消」の取組みを通して、消費者と生産者、都市と農村の共生づくりを進めて参りました。具体的には、「講演会や研修会の開催」、「各立場の会員による自主的な地産地消の取組み」といった活動を毎年継続して行ってきました。

平成30年度も、熊本県との共催で、9月に「くまもと食・農ネットワーク 研修会」を2月に「2019春 地産地消のつどい」を開催しました。

II 活動内容

1 ネットワークの活動

(1) 運営委員会の開催 4回

開催日	主な議題
5月29日（火）	今年度の方針について
7月30日（月）	総会及び研修会について
10月30日（火）	交流会「つどい」について
1月17日（木）	「2019春地産地消のつどい」について

(2) 総会

9月4日（火）、ホテル熊本テルサ たい樹の間

主催：くまもと食・農ネットワーク

参加者 56名



(3) 会員研修会 (県と共催で開催)

9月4日(火)総会終了後開催、ホテル熊本テルサ たい樹の間

主催：くまもと食・農ネットワーク、熊本県

参加者 65名

講演：「食で地域を元気に～熊本地震 その時学校は～」

講師：山都町教育長 井手 文雄

事例発表：「田舎に隠れた逸品を都市圏に売り込もう！！」

発表者：上天草さんばーる(株) 道の駅上天草さんばーる支配人 何川 嘉一

平成28年(2016年)熊本地震発生時、益城町立広安西小学校校長であり、現山都町教育長の井手文雄先生に、当時の避難所運営について、食事等様々なアイデアで被災者を元気づけ、避難所を運営された話を講演していただいた。

事例発表では、道の駅上天草さんばーる支配人の何川嘉一氏に湯島大根のブランド確立と県内外への販路拡大の事例を発表していただき、地域と連携した物産館の今後の役割について話していただいた。



(4) 2019春 地産地消のつどい

2月18日(月)、ホテル熊本テルサ たい樹の間

主催：くまもと食・農ネットワーク、熊本県、熊本県農産物加工推進協議会

参加者 74名

【第一部】

講演：「食べてつながる命、育つ心～だから今、自炊なんだ！」

講師：九州大学持続可能な社会のための決断科学センター

准教授 比良松 道一氏

【第二部】

熊本県農産物加工食品コンクール入賞食品のPR及び試食会

・県産農産物(会場展示)の紹介、抽選会

現在、九州大学で食・環境・子育てに関する講義、講演、ワークショップを行われている比良松准教授に、「弁当の日」等の食育の取り組みの話等の講演をしていただいた。また、熊本県農産物加工推進協議会と共催で平成30年度の熊本県農産物加工コンクール入賞商品の紹介を行った。



(5) 会員の増大に向けたPRの強化

熊本県で生産された農林水産物等の利活用を推進するため、その魅力を県民にPRしていただく販売店や飲食店を地産地消協力店としています。（平成30年度末現在750店舗）この協力店の方々にもネットワーク会員として活動いただくことをお願いしており、平成31年3月時点での会員数は2,072人となっています。

■会員数の推移

（単位：人）

H14.8 (設立時)	H21.3	H22.7	H23.4	H24.6	H25.6	H27.3	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3
219	1,491	1,581	1,712	1,758	1,780	1,906	1,991	2,005	2,040	2,072

(6) くまもと食・農ネットワーク運営委員によるリレーコラムの配信

ネットワーク運営委員（20名）の日頃の地産地消に関する活動や考えを、リレーコラムとして、「熊本県地産地消サイト」やメールマガジンで会員に発信し、地産地消活動への共感を得ることにより、更なる会員の増加、会員活動の活性化に努めました。

(7) 地産地消協力店による店舗独自の取組み

各地産地消協力店では、消費者に対する県産農林水産物等の魅力のPRに向けた店舗独自の様々な取組みが行われています。

■地産地消協力店の特徴的な活動事例（H30活動事例）

地域	区分	活動内容
熊本市	販売店	・「熊本のトマトを食べよう！」がタイトルのチラシを作成、サラダ以外の食べ方メニュー提案と試食（トマトのごまみそ汁、トマト・デ・すき焼き、トマトの炊き込みご飯）を行った。 ・寒い時期も熊本のトマト消費拡大できればと思い、2日間、トマトの加熱料理の試食販売のイベントを行った。お客様に高評価を頂いた。
熊本市	飲食店	・県内産の野菜、米などを使用したランチバイキングを提供した。 ・年2回地域の方々と協力して祭りをを行いそこで地域で採れた野菜の販売を行った。
熊本市	販売店	・自社農園（山鹿市）で栽培した椿を、自社工場で搾油し、「椿油CS」として販売。油の酸化が少なく、着色や独特の匂いが少ない非加熱圧搾製法で作った貴重な山鹿産の椿オイル。ベタつきがなく、なじみも良いので紙だけでなく全身にお使いいただく様ご紹介。新発売記念セール時、香りや使い心地を店頭でお試し頂く。2017年分は完売。

地域	区分	活動内容
菊池	飲食店	・ 四季折々の旬の食材を使った手作り料理を提供する。 ・ 人文字のぐるぐる、筍のひこずり（木の芽入り）、のっぺ汁などの郷土料理などもできるだけ取り入れている。 ・ 健康応援の思いから今後も地元の食材を使い小鉢を並べたお膳での食事の提供を続けていきたい。
菊池	販売店	・ 熊本県産米粉を使った弊社商品の「お米のロールアイス」を、菊池あいす倶楽部主催「きくちアイススタンプラリー」に参加し販売した。今年度は、熊本県産すいか、デコポン味の新作ロールアイスを開発。お客様に好評だった。 ・ 熊本県産米粉を使った「黒い？レモンケーキ」を店頭にて積極的に販売した。米粉を使ったチョコスポンジのレモンケーキは、他の店舗になくお土産として購入していかれるお客様も多い。 ・ 生のケーキに使う季節のフルーツは、できるだけ熊本県産の果物を使い、お客様にアピールした。
上益城	販売店	・ 地元の野菜の販売と共に野菜たっぷりのチャンポンを提供。 ・ 連休や祝日を利用してのテントの販売（地元の野菜、乾燥野菜、生ブルーベリー、ブルーベリーのジャムなど）ジビエカレーの宣伝などを行った。 ・ 地域のおばあちゃん達を招いて郷土料理の実施。
八代	直売所	・ 旬の食材を使ったメニューをレストランで提供。 ・ 旬の食材を使った新メニュー「牛丼」を開発した。 ・ ツーリズム事業で食育活動を行っている。
天草	販売店	・ 地元産のイチジクジャムを1年間販売。 ・ 栖本中学校へはイチジクを使ったジャム作りの指導

2 県の支援

(1) ホームページ「熊本県地産地消サイト」(<http://cyber.pref.kumamoto.jp/chisan/>)
の活用による活動のPR及び会員の募集

ホームページ「熊本県地産地消サイト」などの活用により、地産地消協力店の情報紹介やネットワーク運営委員によるリレーコラムの発信等、食・農ネットワークの活動をPRしました。

■地産地消サイトのアクセス数

アクセ ス数 (件)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	145,388	180,904	151,420	301,034	214,928	213,874	355,040	349,518

また、2018くまもと農業フェア（11月10日・11日）など県内で開催される食や農業関連のイベント等において、地産地消の取組みをPRするとともに会員募集チラシを配布し、会員数の増大に努めました。



(2) 地産地消協力店の活動紹介

地産地消協力店の様々な活動の事例調査を実施し、「地産地消サイト」に掲載して紹介しました。

また、県民の地産地消協力店についての認知度アップを図るため、各種の広報媒体やイベントなどの機会を利用して制度を紹介しました。

(3) ホームページ「熊本県地産地消サイト」を通じた情報の提供

ホームページを活用し、旬の農産物やその食べ方、料理レシピ、また、各地域の地産地消関係イベント、ニュースなどの情報提供、会員へのメールマガジン配信を行いました。（毎月2回）



運営委員の改選（案）

くまもと食・農ネットワーク運営委員 選任案（敬称略）

No.	区分	旧			新	
		氏 名	所 属 等		氏 名	所 属 等
1	生産者の立場	山田 政晴	（有）山田牧場 代表取締役社長			
2		西浦 文子	花工房てんすい 代表			
3		藤川 貴臣	果樹農家			
4		河原 君代	くまもとふるさと食の名人			
5		沢畑 亨	水俣市久木野ふるさとセンター 愛林館 館長			
6		大住 浩蔵	J A やつしろ 営農部長			
7		本田 浩	J A 熊本中央会			
8	消費者の立場	田中 愛美	熊本県消費者協会会員			
9		平川 恵子	食生活改善推進連絡協議会 書記	➡	芹川 恵	食生活改善推進連絡協議会 副会長
10		持田 成子	野菜ソムリエ上級プロ 女子栄養大学生涯学習講師			
11		岩田 幸治	東部青果（株）常務取締役			
12		伊藤 敦子	農業法人アグリパーク熊本有限会社			
13		小出 史	（有）ソルトファーム 取締役			
14		相藤 春陽	ウェルソーレ代表/管理栄養士			
15		吉田 智	株式会社イズミ ゆめタウンはません 食品次長	➡	駒井 良至	株式会社イズミ ゆめタウンはません 食品次長
16	学識経験者	坂本 達昭	熊本県立大学環境共生学部 食健康科学科 講師			
17		阿部 淳	東海大学農学部 応用植物科学科 作物学研究室 教授			
18		楠本 佳奈子	熊本日日新聞社 編集局政経部 部次長兼論説委員			
19		加来 裕	熊本県医師会（慶徳加来病院理事長）			
20		井手 文雄	山都町教育長			

令和元年度（2019年）活動計画（案）

I 活動方針

くまもと食・農ネットワークは、「長引く不況や輸入農産物の増加に伴う農産物価格の低迷による農村の活力低下」や「食の安全性への消費者の関心の高まり」などを背景に、平成14年に発足しました。以来、「地産地消」の考え方を基本に、消費者と生産者、都市と農村の共生づくりを進めることで様々な課題への効果を期待して、地産地消協力店をはじめ、各会員がそれぞれの立場で活動を行って参りました。

くまもと食・農ネットワークでは、本年度も「地産地消」の推進を目的とした様々な活動を通して、「食」と「農」の結びつきを強め、県民一人ひとりが食生活や地域の農業、環境を身近に考えられるような取組みを行っていきます。

II 活動内容

1 ネットワークの活動

(1) 総会

8月28日（水）（活動実績の報告と活動計画の承認）

(2) 運営委員会の開催 4回

<u>開催日</u>	<u>主な議題</u>
5月31日（金）	今年度の方針について
7月25日（木）	総会・研修会について
10月	セミナー及びつどい内容検討
1月	セミナー及びつどい内容検討

(3) 会員研修会 2回

各会員の活動を推進するための研修会を県と共催で開催

第1回 8月28日（水）（総会終了後）

第2回 2月頃 （地産地消の集い）

(4) 会員の増大に向けたPRの強化

地産地消協力店募集を通じ、ネットワーク活動のPRに努め、趣旨に賛同する会員の増大を図ります。

また研修会開催などの機会に出席者へネットワーク入会の勧誘を行います。

(5) くまもと食・農ネットワーク運営委員等によるリレーコラムの配信

ネットワーク運営委員の日頃の地産地消に関する活動や考え、並びに会員の活動等を、リレーコラムとして、「熊本県地産地消サイト」やメールマガジンで会員に発信し、地産地消活動への共感、興味の喚起につなげます。

(6) 地産地消協力店の活動PR

協力店が独自に行う地産地消に関する取り組みについて、「熊本県地産地消サイト」を通じて、情報発信、PRに取り組みます。

2 県の支援

(1) ホームページ「熊本県地産地消サイト」を通じた活動のPR及び会員の募集

「熊本県地産地消サイト」を活用して、地産地消協力店を始めとする食・農ネットワークの活動をPRします。

(2) 地産地消協力店の活動紹介

地産地消協力店の様々な活動の事例調査を実施し、「地産地消サイト」に掲載して紹介します。

また県民の地産地消協力店についての認知度アップを図るため、各種の広報媒体やイベントなどの機会を利用して制度を紹介します。

(3) ホームページ「熊本県地産地消サイト」を通じた情報の提供

ホームページを活用し、旬の農産物やその食べ方、料理レシピ、また各地域の地産地消関係イベント、ニュースなどの情報提供、会員へのメールマガジン配信を行います。

くまもと食・農ネットワークリレーコラム

1 趣旨・目的

くまもと食・農ネットワーク会員に対し、運営委員、並びに会員の日頃の地産地消に関する活動や考えをコラムとして地産地消サイトやメールマガジンに掲載し、会員に発信することで、地産地消活動への共感を得るとともに、更なる会員の増加、会員活動の活性化につなげる。

2 執筆順序（H30 計画）

※基本は下記スケジュールで掲載しますが、運営委員以外の会員等によるコラムに差し替わって掲載される可能性もあります。

	執筆委員名	メールマガジン掲載予定日
1	大住 浩蔵 委員	令和元年（2019 年）8 月 15 日
2	西浦 文子 委員	令和元年（2019 年）9 月 15 日
3	芹川 恵 委員	令和元年（2019 年）10 月 15 日
4	岩田 幸治 委員	令和元年（2019 年）11 月 15 日
5	沢畑 亨 委員	令和元年（2019 年）12 月 15 日
6	楠本 佳奈子 委員	令和 2 年（2020 年）1 月 15 日
7	伊藤 敦子 委員	令和 2 年（2020 年）2 月 15 日
8	加来 裕 委員	令和 2 年（2020 年）3 月 15 日
9	持田 成子 委員	令和 2 年（2020 年）4 月 15 日
10	阿部 淳 委員	令和 2 年（2020 年）5 月 15 日
11	坂本 達昭 委員	令和 2 年（2020 年）6 月 15 日
12	藤川 貴臣 委員	令和 2 年（2020 年）7 月 15 日
13	田中 愛美 委員	令和 2 年（2020 年）8 月 15 日
14	山田 政晴 委員	
15	河原 君代 委員	
16	駒井 良至 委員	
17	小出 史 委員	
18	井手 文雄 委員	
19	本田 浩 委員	
20	相藤 春陽 委員	